

第12回 盛岡地区かわまちづくり懇談会 資料



平成29年12月20日
盛岡市
岩手河川国道事務所

1. 前回懇談会の意見と対応方針（1/2）

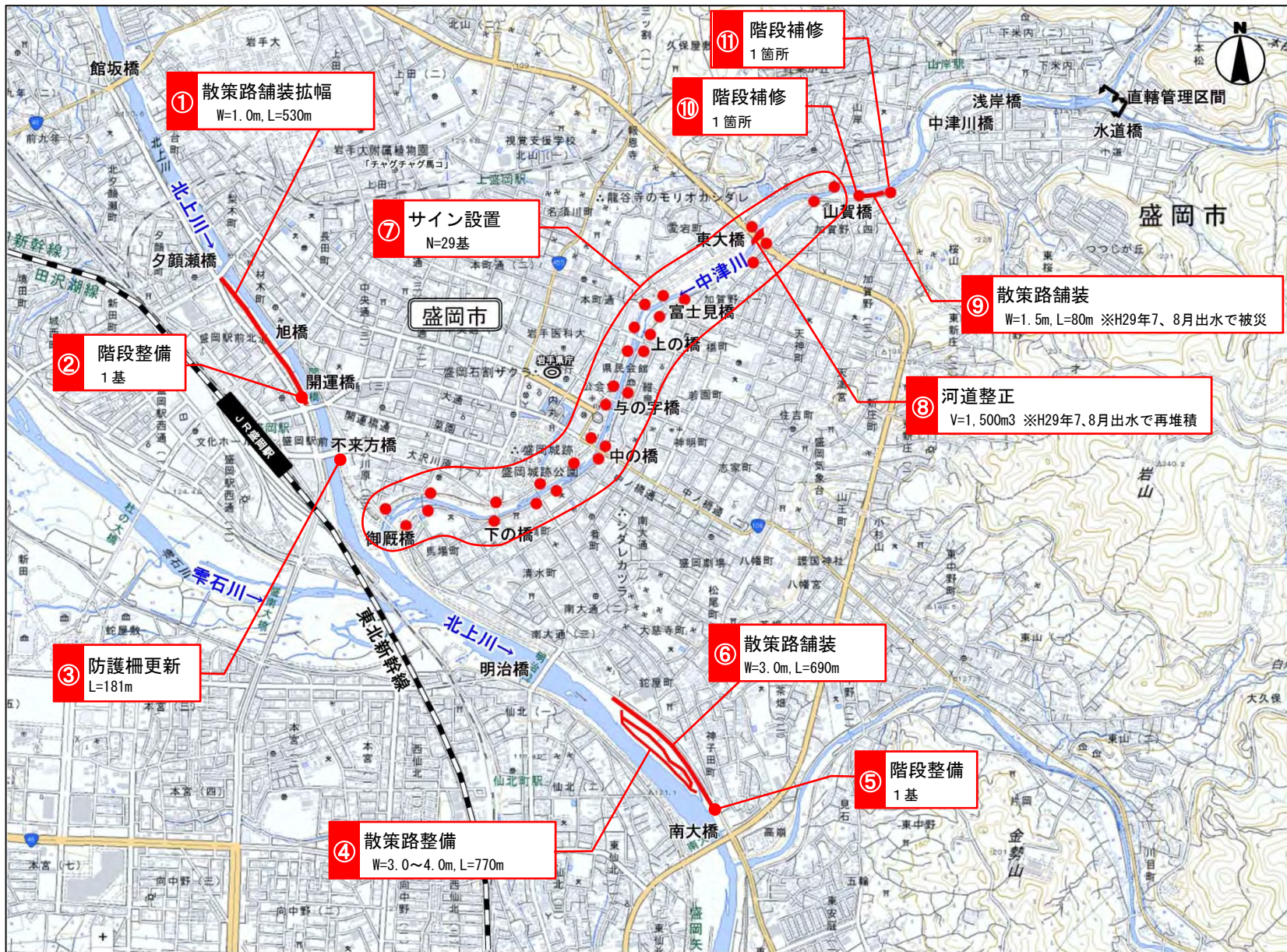
第11回懇談会（H28.12.19）での主な意見	懇談会での事務局からの回答	現状対応
平成27・28年度の事業内容について		
<p>○木伏緑地</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、緑地で整備する事業は考えられているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年9月末で整備は完了した。 ベンチ等の要望は、様子をみながら盛岡市の県産材を使い増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 同左
<p>○中州撤去（浅岸橋上流）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本来中津川の特長としていたサケ及びサクラマス等の生息状況に影響はなかったのか。 水の中に生息する生物は、水の中だけが生息環境ではなく、様々な環境の中で絡み合っている。もうちょっと優しく携わってほしい。 川の環境をどうしたらいいのか、ものすごく難しい問題だと思うので、もっといろんな人の声を聞きながらそこをうまくやっていただく。 浅岸橋の中州を撤去したことで、洪水時に流量に対してどれくらい余裕ができたのか、解析みたいなをしていただけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 伐採は、野鳥の会の方から意見を聞きながら残す木、残さない木を確認しながら伐採している。水面より上の部分でカットしているので、魚に関しては、影響はないと感じている。サケの遡上については、中州を撤去したことによって好影響があったのではないかと。 中州の撤去により流量に対してどのくらい余裕ができたのか、数値を出したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 魚類調査は5年に1回実施しており、投網等を使用した採捕により個体数の確認を行っている。 浅岸橋上流中州撤去は延長293m、土量3,100m³である。
<p>○明治橋の周辺の護岸工事</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しく工事したところ以降のところ、古いところに問題がないのか。今後修景という意味で景観的に引き続き新しいものをつくる予定、もしくは予算などはないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 護岸の工事は、かわまちづくり事業で進めるのは難しい。今後は、予算を獲得して別事業での対応になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平常時の河川巡視により護岸の状況を確認する。大雨による出水後は、注視して点検を行う。
<p>○効果測定</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備後の利用などの効果測定、要望に対しての満足度などの達成度調査はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に効果は測定していないが、事業としては事業評価を実施している。それ以外にも河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）で、ニーズの測定をして事業の評価を実施している。また、川の通信簿で、地域の人に評価してもらうことも実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 同左
<p>○木伏緑地のイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在開催されているイベント等をモニタリングして、整備に反映するとよい。 	<p style="text-align: center;">—</p>	<ul style="list-style-type: none"> 改善意見があれば、整備検討を行う。 (参考) 木伏緑地公園でのイベント回数 平成27年度：1回（公園整備前） 平成28年度：6回（公園整備後） 平成29年度：5回（予定含む）

1. 前回懇談会の意見と対応方針（2/2）

第11回懇談会（H28.12.19）での主な意見	懇談会での事務局からの回答	現状対応
かわまちづくり事業の今後について		
○橋の説明看板 ・国管理、県管理、市管理に関係なく、同じように看板を設置していただけるとありがたい。	—	・未設置の中の橋に看板設置を検討中である。
○納涼栈敷 ・水道橋から上は県管理の川なわけ、この辺の活用なり、保全なりを考えると岩手県もこのかわまちにかかわってもらう必要があるのではないかと思う。 ・中津川納涼栈敷は好評であった為、市、県、国が一体となり安全面、費用負担等のリスクを打破して、再度開催できるとよい。	・県のかかわりが必要だという意見があったということは県に伝える。	・市、県、国で連携しながら、かわまちづくり計画を推進する。 ・再度中津川納涼栈敷のようなイベントを開催できるか検討する。
○舟運 ・新しいことをやるよりは既存でもやり始めた今の盛岡駅の入り口のところの緑化というものの活用、整備等、継続性のあるものにするほうに時間とお金をかけるとかというのも一つかなと思う。 ・懇談会では、データをとるとか、それによってどう変わったとか、サケの遡上も含めて数字で示してほしい。 ・勉強会のほうには、船といっても、いわゆるボートに乗る方々も参加されていて、川を使ったスポーツなどの船着場の案も出たので、ぜひ検討していただければよいと思う。	—	・魚類調査は5年に1回実施しており、投網等を使用した採捕により個体数の確認を行っている。 ・勉強会において意見交換のテーマの1つを「舟運による地域振興」として、参加者からの意見を集約する。この中で船着場についても意見交換を行う。
○整備主体 ・船着場の整備は、どの機関が担当で実施することになるのか。	・船着場整備は国で実施する。舟運が可能かという調査等も今後必要になってくる。それは市と協力しながら進める。	・船着場の整備は、舟運に関わる関係者や利用者にも確認しながら検討を行う。
○サイン計画について ・市民、観光客を川に誘導する役割を果たすには、できれば階段の上の部分にあれば、河川敷へ導けるのではないか。 ・民地、川沿いの民間の人たちの協力を得て、文章と写真の解説でより深く知ってもらうサインが1カ所でも2カ所でもあるとよい。	・階段の降り口など河原に突き出したような構造であれば設置可能である。 ・民地への設置は難しいが、大きいものでなければ可能性はある。	・今年度、中津川に小型サインを29箇所設置した。 ・来年度は、北上川に小型サインを設置予定である。
○全体を通じて（河川敷内の樹木） ・全体に中津川を中心に河川敷にある樹木や中州は景観を阻害するという一刀両断の捉え方が流れているような気がして、違うのではないかと思う。 ・景観的、自然、動植物、生き物たちの生息の場、防災面についてよく考えて木を管理、コントロールしてほしい。	・いただいた意見を考慮しながら、進めていきたい。	・治水、環境、景観や地域の意見も考慮しながら、河川整備を実施する。

2. 事業報告 – H29 整備内容 (1/8)

盛岡地区かわまちづくり H29整備箇所 位置図



2. 事業報告 – H29 整備内容 (2/8)

【北上川】

① 夕顔瀬橋下流右岸 散策路舗装拡幅



施工前 (2017.3.16)



施工後 (2017.6.22)

② 開運橋上流右岸 階段整備



施工前 (2017.3.16)



施工後 (2017.6.22)

2. 事業報告 – H29 整備内容 (3/8)

③ 開運橋下流左岸 防護柵更新



施工前 (2017.7.6)



施工後 (2017.8.5)

④ 南大橋上流左岸 散策路整備



施工前 (2017.4.20)



施工後 (2017. 10.1)

2. 事業報告 - H29 整備内容 (4/8)

⑤ 南大橋上流左岸 階段整備



施工前 (2017.3.25)



施工後 (2017.9.16)

⑥ 南大橋上流左岸 散策路舗装



施工前 (2017.3.25)



施工後 (2017.9.22)

2. 事業報告 – H29 整備内容 (5/8)

【中津川】

⑦ サイン設置 (29基)



施工後 (2017.12.9)



施工後 (2017.12.9)

⑧ 東大橋周辺 河道整正 ※平成29年7月、8月の大雨で中津川が増水し、再堆積した。(今年度内に再度河道整正する予定)



施工前 (2017.3.25)



施工後 (2017.5.8)

2. 事業報告 – H29 整備内容 (6/8)

⑨ 山賀橋上流左岸 散策路舗装 ※平成29年7月、8月の大雨で中津川が増水し、散策路が被災した。(今年度内に復旧予定)



施工前 (2017.4.13)



施工後 (2017.5.19)

⑩、⑪ 山賀橋上流左岸 階段補修



施工前 (2017.4.4)



施工後 (2017.5.19)

2. 事業報告 – H29 整備内容 (7/8)

盛岡市の事業報告

■第46回もりおか環境緑花まつり

「緑が文化になるまち 盛岡」を目指し、みんなが緑の大切さを認識し、緑を守り育て、緑豊かと感じ、緑と花のふれあいを楽しむため、また、平成23年東日本大震災及び平成28年台風10号の被災者の方々の早期復興を祈願し、「第46回もりおか環境緑花まつり」を開催した。

開催日：平成29年4月21日（金）～ 23日（日）

開催場所：盛岡城跡公園多目的広場

来場者数：3日間合計 29,532人

主催：もりおか環境緑花まつり実行委員会

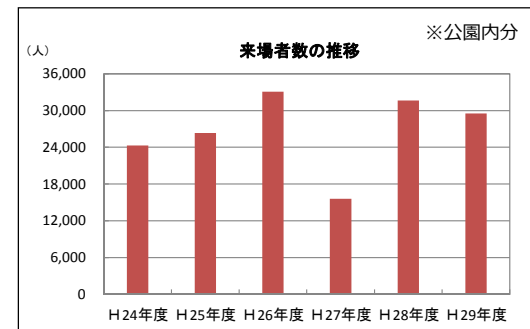
開催内容：・寄せ植えデモンストレーション
・花と緑の展示・即売会
・ミニガーデン製作展示 など41のイベントを開催



寄せ植えデモンストレーション



花と緑の展示即売会



平成29年度は、29,532人が来場

■いしがきミュージックフェスティバル

平成18年の「岩手公園開園100周年」を契機に、盛岡城跡公園を中心とした中心市街地活性化を図るため、盛岡駅前、大通り、菜園、肴町エリアで、民間主導型音楽事業を展開している。県内外から多くの方が来盛し、会場のみならず商店街にも人が溢れ、中心市街地を元気づけるイベントとして定着している。

開催日：平成29年9月18日（月・祝）

開催場所：市内10会場

来場者数：80,371人（過去最多）

主催：いしがきミュージックフェスティバル実行委員会

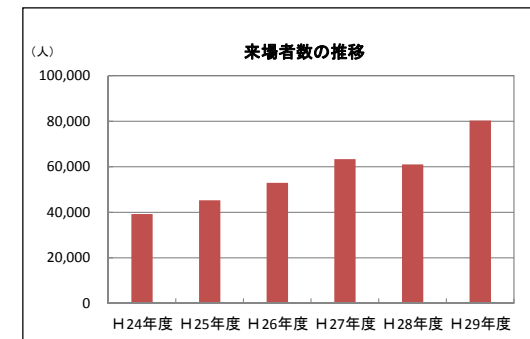
開催内容：・音楽イベント
・グルメイベント（県内外の人気店の出店、沿岸被災地の飲食店の誘致）



盛岡城跡公園多目的広場



もりおか歴史文化館前庭広場



来場者数は増加傾向で、平成29年度は、過去最多の80,371人が来場

2. 事業報告 – H29 整備内容 (8/8)

盛岡市の事業報告

■ 盛岡市農業まつり

盛岡市内の農業者相互の研鑽や連携の強化、農業者の生産物を通じた市民の農業に対する理解の促進を目的に、昭和62年より開催している。

開催日：平成29年10月28日（土）、29日（日）

開催場所：もりおか歴史文化館広場

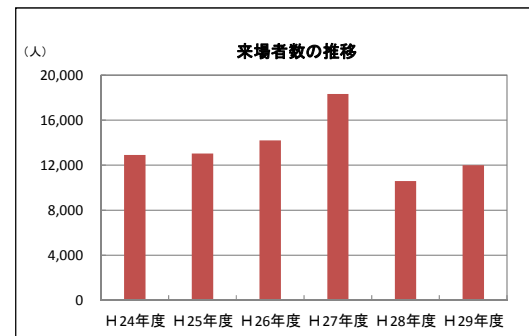
来場者数：約12,000人

主催：盛岡市農業まつり実行委員会

- 開催内容：
- ・会場内イベント
(スタンプラリー、ステージイベント等)
 - ・市内の農林業者等による農産物等の即売
 - ・盛岡の美味しいもんアンバサダー認定メニュー
お振る舞い



会場の様子



平成29年度は、約12,000人が来場

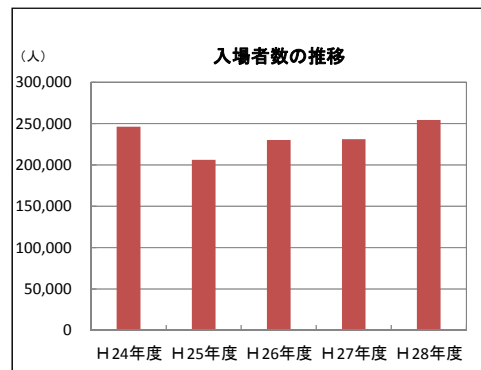
■ もりおか歴史文化館

平成23年7月開館。観光の拠点として位置づけ、拠点施設から中津川までのオープンスペースを一体的に活用している。



もりおか歴史文化館

来場者数は増加傾向で、平成28年度の入場者数は254,513人



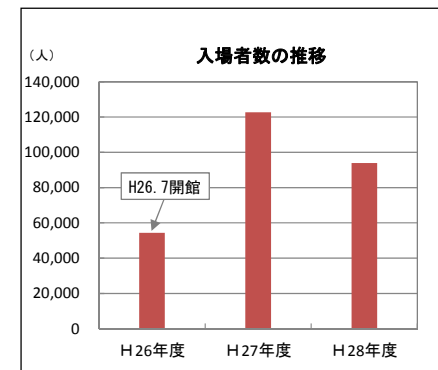
■ もりおか町家物語館

平成26年7月開館。盛岡町家の歴史的な景観との調和を図るとともに、市民の交流の場を提供している。



もりおか町家物語館

平成28年度の入場者数は93,915人



3. 「もりおか中津川サケ物語」の作成（1/3）

「もりおか中津川サケ物語」（サケものしり帳）作成ワークショップ 議論の経緯

平成25年度の第3回かわまちづくり勉強会より、サケを資源としたまちおこしについて議論を重ね、平成27年度の第7回かわまちづくり勉強会において、広報ツールの作成に取り組むことが決定された。これを受け平成28年度に勉強会メンバーの他、関心のある市民を加えたワークショップによる検討を行い、「もりおか中津川サケ物語」を作成した。

第1回ワークショップ（H28.11.24）

検討内容

読者像、構成項目、サイズ・ページ数

主な意見（冊子に反映された内容）

- ・中津川にゆかりのある人の話、思い出を記載。
- ・危険箇所があるので、川遊びの注意も必要。
- ・中津川のサケについて、市民の取り組みについて記載する。
- ・命（いのち）のつながり、食物連鎖、海と森について記載する。

第2回ワークショップ（H29.1.24）

検討内容

体裁、構成骨格、構成内容、表現方法、タイトル

主な意見（冊子に反映された内容）

- ・中津川のマップ上に、サケの産卵が見られる場所を入れる。
- ・サケに関する年間の活動や遡上、産卵がみられる時期がわかるカレンダーを追加する。
- ・中津川でのサケ漁の話に記載する。
- ・魚道の話に記載する。

第3回ワークショップ（H29.2.14）

検討内容

各項目ごとの構成要素、補足要素、最終修正点

主な意見（冊子に反映された内容）

- ・サケは2カ月くらいしか中津川にいない為、その他の動物もいることを促す。
- ・都市の真ん中でサケの産卵が見られることを記載する。
- ・川は、雨が降って水が増える時は帰る、大人や親と一緒に行くことを示す。

第4回ワークショップ（H29.3.2）

検討内容

文言確認、今後の課題、WSの今後の活動

主な意見（WSの今後の活動について）

- ・サケの遡上を知らせる旗の設置活動。
- ・河川の維持管理を行う組織が必要。
- ・帰ってくるサケを多くする活動。
- ・テーマを生き物、文化などにした冊子の第2弾を作成する。
- ・ワークショップは継続する。

決定事項

- タイトル：「もりおか中津川サケ物語」
- 読者像
 - ・小学校高学年（4年生程度）の児童
 - ・自分の子どもまたは来外者にその内容を伝えたい大人
- 作成目的
 - ・小学校でのサケに関する授業（総合学習の時間）などでの活用
 - ・一般市民や来外者向けのサケに関する参考資料として活用
- 体裁：A5サイズの冊子タイプ
- 目次
 - ① ボクのふるさと中津川
 - ② ボクが生まれるまで(産卵)
 - ③ ボクが生まれるまで(卵から稚魚へ)
 - ④ ボクの長い旅
 - ⑤ いのちのつながり
 - ⑥ 安心できる中津川
 - ⑦ 中津川にすむ生き物たち
 - ⑧ 中津川の昔と今
 - ⑨ 川を楽しむために
- 企画・編集・発行の団体名
「もりおか中津川サケ物語編集委員会」

■ 完成冊子

発刊：H29.3



会議の様子（第3回ワークショップ）

3. 「もりおか中津川サケ物語」の作成 (2/3)

「もりおか中津川サケ物語」配布状況、活用状況の報告

■ 配布先 配布先は、下表のとおりである。

平成29年3月時点

配布先	配布数
中津川近隣小学校 (9校)	2,150
盛岡市公園みどり課	250
盛岡市観光交流課	350
盛岡市児童センター (35箇所)	1,750
もりおか歴史文化館	300
プラザおでって	300
ワークショップメンバー	3,543
岩手河川国道事務所	1,360
計	10,003

■ 冊子配布案内を設置 (平成29年11月8日)



案内の内容



■ 活用状況

平成29年4月15日「北上川流域一斉清掃」の会場において、希望者に冊子を配付した。そのほか、小学生の環境学習の場やイベントなどでも冊子を配付した。



■ 新聞に掲載

盛岡タイムス
平成29年
4月17日
6面



■ 岩手河川国道事務所HPで公開



HPで冊子のダウンロード、サケの産卵動画の視聴が可能

3. 「もりおか中津川サケ物語」の作成（3/3）

「もりおか中津川サケ物語」今後の活用

■ 第4回ワークショップでの活用方法についての主な意見

- ・私学などにも活用してもらうように呼びかけを実施する。
- ・サケの産卵場所の拡大を図るために、河床耕運を実施し、その時の教材として利用してはどうか。
- ・岩手大学の留学生に配布したらどうか。
- ・教育委員会に、配布先や必要部数を相談してみてもどうか。
- ・大きくパネルにして展示する方法もある。
- ・盛岡市を訪問する修学旅行の生徒にも配れたらよい。

■ 今後の活用方法の提案

- ・配布先は盛岡だけでなく、北上川の下流域でも配布するなど、流域全体で広域的な連携を図る。
- ・観光パンフレット等に冊子の配布場所を紹介する。
- ・冊子を使用した学習イベントの実施。

サケを資源としたまちおこしへの展開（イメージ）

- ・地域活性化方策（サケを観光資源として新たな賑わいを創出。エコツーリズムの実施。）
- ・観光誘致（サケ遡上の情報発信（広報誌、HPの開設など））
- ・環境教育（小学生を対象とした、稚魚の放流とあわせた環境教育の実施）
- ・啓発活動（サケに関する講習会の実施、サケに関する知識が深まる仕組み作り）
- ・市民活動（サケガイドの育成）
- ・拠点施設等の整備（サケの観察場所、案内看板など）
- ・環境保全（サケが戻れる環境を守る活動の実施（既存の清掃活動の拡大など））

4. かわまちづくり計画の変更（1/2）

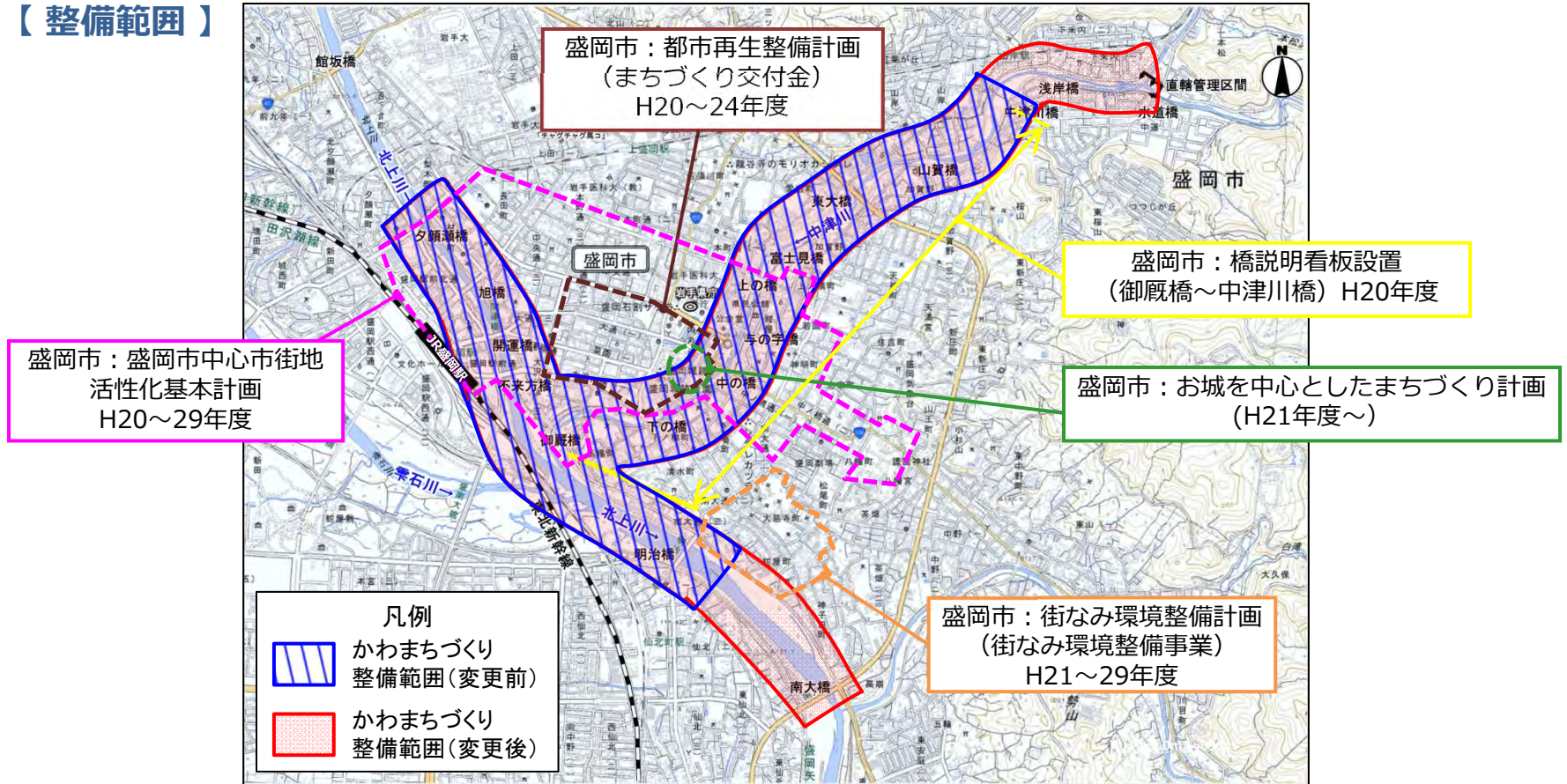
かわまちづくり計画の事業メニューに『舟運による新たな賑わいの創出』を追加

盛岡駅前に大河川（北上川）がある特性や歴史的背景を踏まえ、市民らから舟運復活に向けた動きが出て来ていることから、事業メニューに「舟運による新たな賑わいの創出」を追加することとなった。以下のとおり「かわまちづくり計画」の見直しを実施し、平成29年3月7日付けで変更登録となった。

	変更前	変更後
整備期間	平成21年度～平成29年度まで	平成32年度まで （モニタリング等を含めた事業期間は平成37年度）
整備範囲（中津川）	北上川合流点から中津川橋まで （L = 3.4 km）	北上川合流点から水道橋まで （L = 4.3 km）
整備範囲（北上川）	明治橋（旧新山河岸付近）から夕顔瀬橋まで （L = 2.6 km）	南大橋から夕顔瀬橋まで （L = 3.4 km）
ソフト施策実施範囲	中津川 中の橋下流地区	中津川 中の橋下流地区 北上川 開運橋上流地区
追加の事業メニュー	-	舟運による新たな賑わいの創出

4. かわまちづくり計画の変更 (2/2)

【整備範囲】



【整備期間】

平成 () 年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
事業主体：盛岡市 まちづくり交付金事業ほか (拠点施設、周辺整備)		事業実施																
事業主体：国土交通省 かわまちづくり事業 (拠点空間、散策路等)	設計																	
	整備																	
																		モニタリング

5. 意見交換 ー ① 旭橋上流階段整備 (1/2)

【旭橋上流階段整備】

■ 河川利用状況

- ・ 川守稲荷神社・荒神神社例大祭（平成29年6月17日）
- ・ 第1回『北上川フェスタ』IN MORIOKAでの乗船体験では、階段護岸を船の発着場所として利用している。

■ 整備検討の背景

- ・ 平成29年6月17日の「例大祭」には主催者が仮設坂路を設営した。地元では、堤防に設置しているゲートを広くして、広めの階段の設置を望んでいる。
- ・ 今後の舟運の取り組み実施に伴い、船の発着場所、船着場の利用が考えられる。

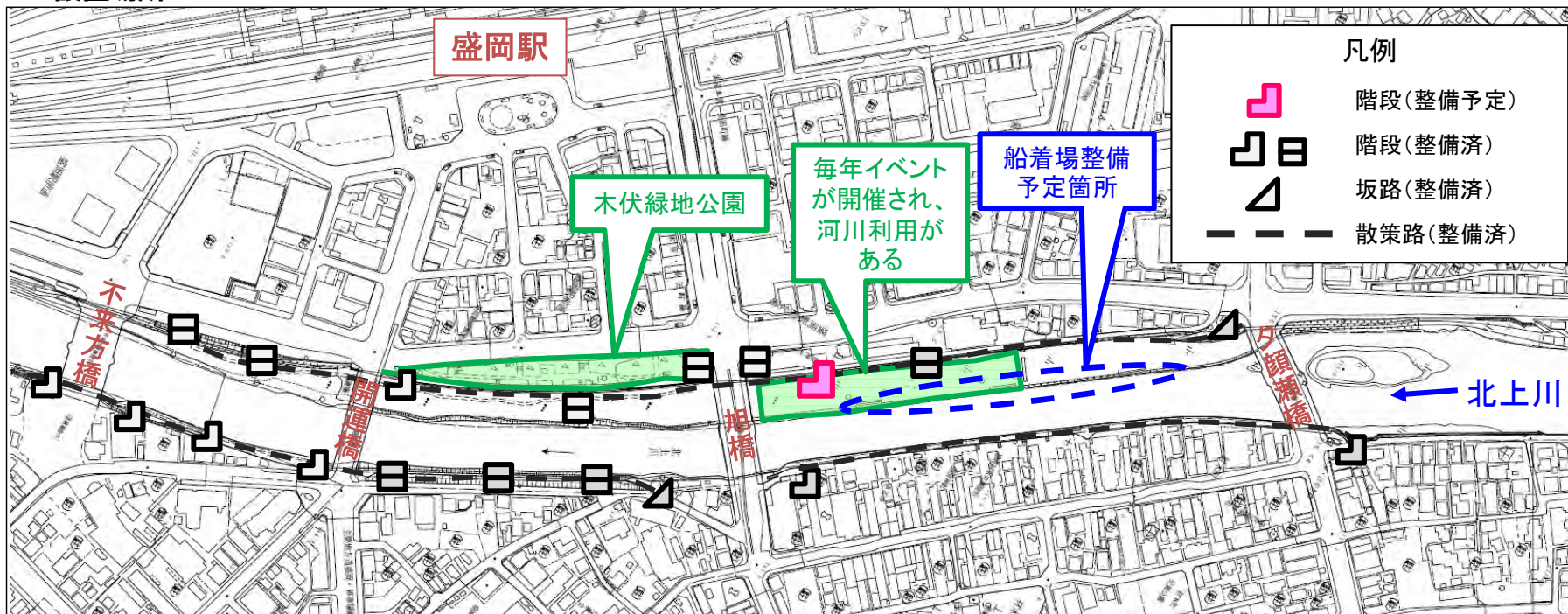


例大祭の河川敷利用状況



船の発着場利用状況

■ 設置場所



5. 意見交換 – ① 旭橋上流階段整備 (2/2)

【旭橋上流階段整備】

盛岡駅前地区に木伏緑地公園が整備されイベント利用があることから、河川空間利用を推進するため旭橋～夕顔瀬橋間に階段を設置する。

《基本事項》

- ・急勾配の階段を改良して緩勾配とし、まちと川のアクセスを向上する。
- ・散策路と階段により、水辺の回遊を図る。

《設置箇所》

- ・設置位置は既設階段と同じ位置とする。
- ・タイプは開運橋上流に設置したものと同様とする。

既設階段



【構造】

事例①：開運橋上流



事例②：明治橋下流



河川側の階段



宅地側の階段

5. 意見交換 – ② サイン計画 (1/4)

■ 前回の懇談会で決定したサインの設置方針

○ 設置について

- ・ 小型サインを河川敷地内に設置
- ・ 河川敷地へのアクセス周辺に設置

○ 記載内容について

- ・ サイン内容は、誘導標示を基本とする。
- ・ 多言語化対応として英文を標示

今年度、中津川へサインを設置

■ 記載内容の方針

- ◎ 小型サインであることから情報量は最小限とする。なお、多言語化対応として英文を記載する。
- ◎ 一度に全体を整備するのではなく、段階的に誘導サインを設置していくことから、特注デザインとせずに、既製品など入手しやすいサインを用いることとし、将来的に誘導サインを増やしていく場合にデザインの統一性が保てるようにする。

■ 記載情報

自分がどこに居て、どちらに行けば良いかを誘導する内容を記載する。

1. 河川空間へのアプローチ施設（階段・坂路）同士の設置間隔（距離）
⇒ 河川空間への誘導情報として活用
2. 北上川と中津川の合流点からの距離
⇒ 河川空間に設けられた散策路を利用したジョギング等への距離情報の提供

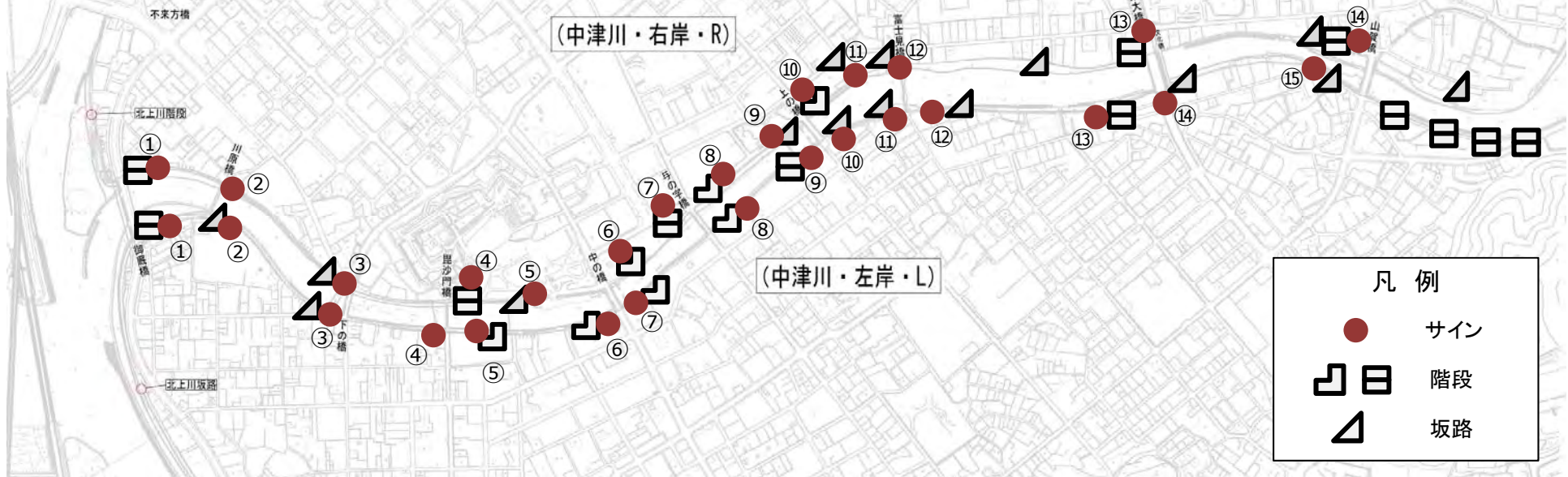


素材：金属板（ステンレス）＋樹脂シート
右上の「サモンくん」は13パターンをランダムに記載



5. 意見交換 - ② サイン計画 (2/4)

■ 設置位置 下図のとおり、中津川に29基を設置。



■ 記載内容

左岸側

階段・坂路位置	場所名	表示内容
①	ここは、御殿橋付近です	北上川坂路まで390m → 川原橋上流坂路まで120m ←
②	ここは、川原橋付近です	御殿橋上流階段まで120m ← 下の橋下流坂路まで280m →
③	ここは、下の橋付近です	川原橋上流坂路まで280m ← 毘沙門橋下流階段まで250m →
④	ここは、毘沙門橋付近です	下の橋下流坂路まで250m ← 毘沙門橋上流階段まで80m →
⑤	ここは、毘沙門橋上流です	毘沙門橋下流階段まで80m ← 中の橋下流階段まで250m →
⑥	ここは、中の橋付近です	毘沙門橋上流階段まで250m ← 中の橋上流階段まで60m →
⑦	ここは、中の橋上流付近です	中の橋下流階段まで60m ← 与の字橋上流階段まで270m →
⑧	ここは、与の字橋付近です	中の橋上流階段まで270m ← 上の橋上流階段まで180m →
⑨	ここは、上の橋下流付近です	与の字橋上流階段まで180m ← 上の橋上流階段まで80m →
⑩	ここは、上の橋上流付近です	上の橋下流階段まで80m ← 富士見橋下流坂路まで110m →
⑪	ここは、富士見橋下流付近です	上の橋上流階段まで110m ← 富士見橋上流坂路まで90m →
⑫	ここは、富士見橋上流付近です	富士見橋下流坂路まで90m ← 富士見橋上流階段まで360m →
⑬	ここは、東大橋下流付近です	富士見橋上流坂路まで360m ← 文化橋上流坂路まで150m →
⑭	ここは、文化橋付近です	東大橋下流階段まで150m ← 山賀橋下流坂路まで310m →
⑮	ここは、山賀橋下流付近です	文化橋上流坂路まで310m ← 山賀橋上流階段まで180m →

右岸側

階段・坂路位置	場所名	表示内容
①	ここは、御殿橋付近です	北上川階段まで75m ← 下の橋下流坂路まで500m →
②	ここは、川原橋です	御殿橋まで190m ← 下の橋まで350m →
③	ここは、下の橋です	御殿橋階段まで500m ← 毘沙門橋上流階段まで280m →
④	ここは、毘沙門橋付近です	下の橋坂路まで280m ← 中の橋下流坂路まで120m →
⑤	ここは、中の橋下流付近です	毘沙門橋上流階段まで120m ← 中の橋上流階段まで220m →
⑥	ここは、中の橋上流付近です	中の橋下流坂路まで220m ← 与の字橋下流階段まで150m →
⑦	ここは、与の字橋下流付近です	中の橋上流階段まで150m ← 与の字橋上流階段まで50m →
⑧	ここは、与の字橋上流付近です	与の字橋下流階段まで50m ← 上の橋下流坂路まで210m →
⑨	ここは、上の橋下流付近です	与の字橋上流階段まで210m ← 上の橋上流階段まで80m →
⑩	ここは、上の橋上流付近です	上の橋下流坂路まで80m ← 富士見橋下流坂路まで150m →
⑪	ここは、富士見橋下流付近です	上の橋上流階段まで150m ← 富士見橋坂路まで30m →
⑫	ここは、富士見橋です	富士見橋下流坂路まで30m ← 東大橋下流坂路まで380m →
⑬	ここは、東大橋です	富士見橋坂路まで510m ← 山賀橋下流坂路まで440m →
⑭	ここは、山賀橋下流付近です	山賀橋上流坂路まで230m ← 東大橋階段まで440m →

■ 設置状況

5. 意見交換 - ② サイン計画 (3/4)

【北上川サイン設置】

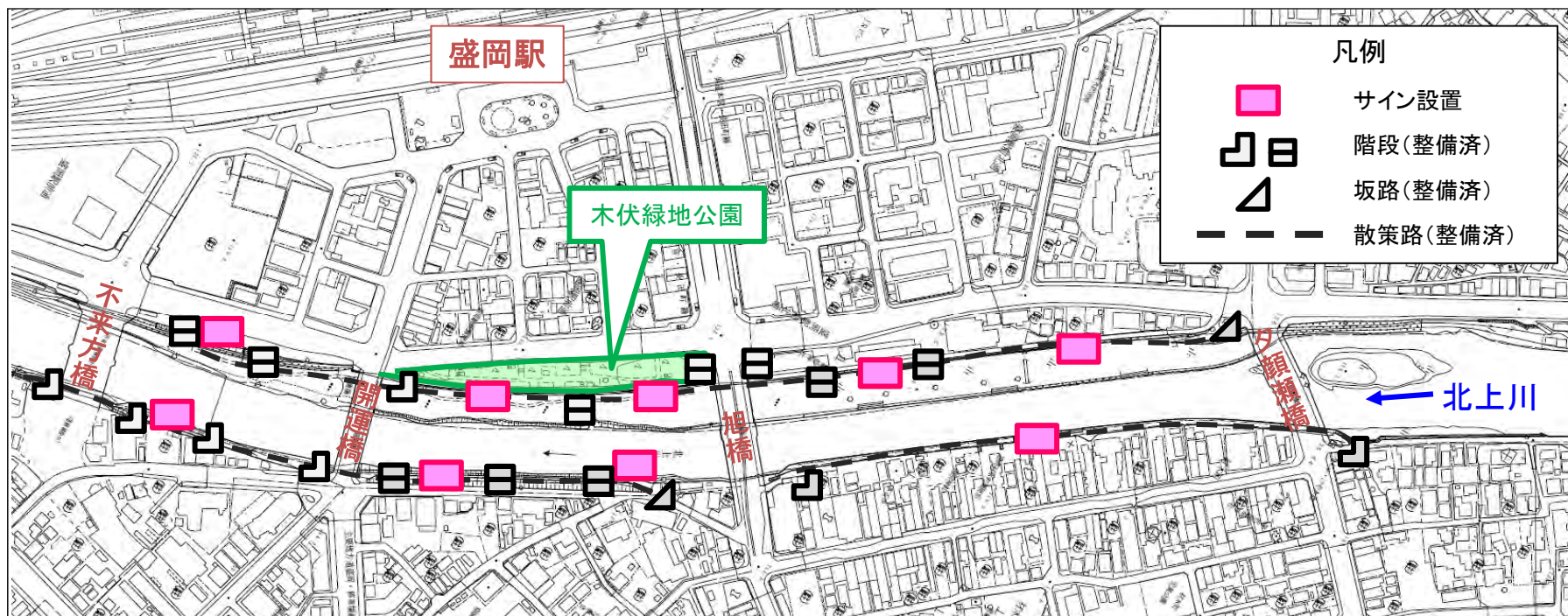
北上川（夕顔瀬橋～南大橋間）へ、中津川と同様のサインを設置する。

《設置箇所》

- ・ 小型サインを河川敷地内に設置する。
- ・ 避難誘導を考慮し、階段・坂路の中間地点の護岸に設置する。

《記載内容》

- ・ 現在位置の把握と誘導情報の標示を基本とする。
- ・ 多言語対応として、英文を標示する。
- ・ 中津川のサインに使用したサケのキャラクターに替わるものを検討する。



5. 意見交換 – ② サイン計画 (4/4)



中津川のサインに使用した、サケのキャラクターに替わるものを検討する。

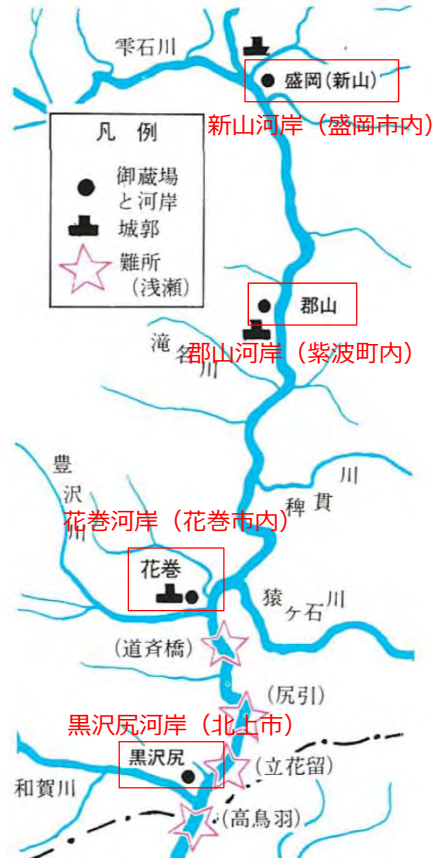
案1：北上川のシンボルキャラクター	案2：北上川のシンボルマーク	案3：さっこちゃん
<p>北上川のシンボルマークとシンボルキャラクターの公募を行い、1487点の中から決定した。北上川の「北」を使いデザインした作品で、愛称は「キタちゃん」。</p>	<p>北上川のシンボルマークとシンボルキャラクター公募を行い、1487点の中から決定した。北上川の「キ」をモチーフに北上川が流域にもたらす「活力と憩い」を2色の楕円で象徴している。</p>	<p>盛岡さんさ踊り33回記念の公式マスコットキャラクター。盛岡さんさ踊り実行委員会では、33回目の開催を記念して、たくさんの人に親しまれるマスコットキャラクターとその名称を公募し、367点の応募の中から選ばれた。</p>
案4：開運かなえちゃん	案5：かわまちづくり	案6：北上川と岩手山の写真
<p>2009年11月26日、開運を運ぶ妖精として盛岡駅前商店街振興組合で生まれた。盛岡駅前商店街の象徴でもある開運橋を頭にのせ、盛岡市の鳥である“セキレイ”を頭に飾っており、盛岡駅前商店街のコンセプトである“開運”をアピールしている。</p>	<p>「かわまちづくり」計画登録箇所に统一的に活用できるロゴマーク。川が流れる彩り豊かなまちや生活をモチーフに表現するとともに、実をつける木をイメージした。未来へつながる「かわまちづくり」のシンボルマーク。</p>	<p>盛岡駅前のビューポイントである開運橋からの北上川と岩手山の写真。</p>

5. 意見交換 – ③ 舟運による地域振興 北上川における舟運の歴史 (1/3)

盛んであった北上川の舟運：米穀を中心とする物資輸送の大動脈

江戸時代：舟運本格化⇒江戸への廻米 ■盛岡藩（北上川上流・中流域）における河岸位置

- ・慶長16年（1611年）頃に、紀州や大阪から船大工を呼び寄せ舟を造らせてことから始まるとされ、慶安3年（1650年）には盛岡に船奉行を置き、廻米が本格化。
- ・盛岡を始めとする北上川上流では、水深が浅いため、小型の舟（オグリ舟・120俵積程度、長さ約16m・幅約2.7m）で荷を運び、北上川の中流部となる黒沢尻（北上市）で大型のヒラタ船（450俵積程度、長さ約18m・幅約5m）に荷を載せ替え石巻まで運び、石巻から千石舟など海洋船に載せ替え江戸まで輸送。
- ・盛岡藩内には、御蔵場をもつ河岸が四つあった（右図参照）。



川の水運

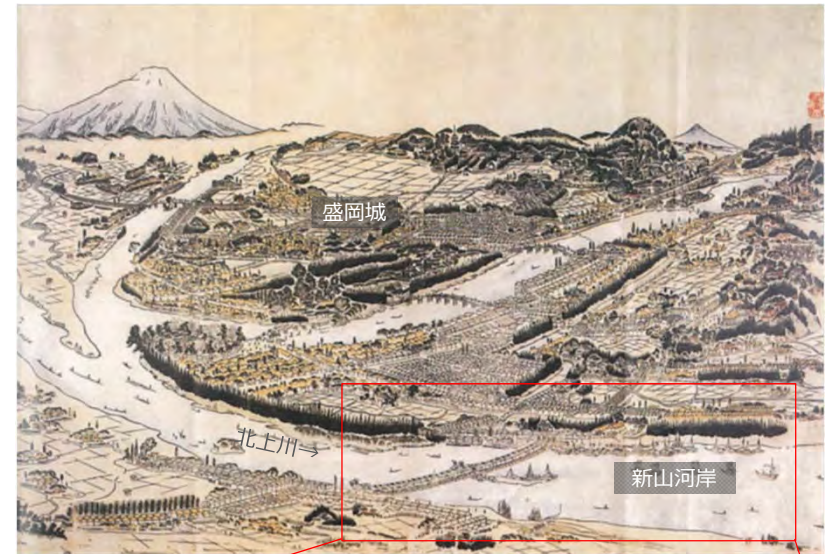


復元されたヒラタ舟
北上観光コンベンション協会HP



オグリ舟のイメージ
北上川学習交流館「あいぼーと」HP

■江戸末期の盛岡城下の様子



拡大図



出典：城下町古地図散歩8 盛岡城下

舟橋より下流左岸が新山河岸であり、帆のあるオグリ舟（小繰舟）の係留が見られる。なお、舟橋より上流は、帆の無いオグリ舟の姿が見られる

5. 意見交換 – ③ 舟運による地域振興 北上川における舟運の歴史 (2/3)

町の反映を支え、明治時代まで使用された舟橋

- ・「新山河岸」は、盛岡城下の入口に位置し、舟運の起点であり人が集まり物資の流通も多く、要所であった。
- ・この場所に物流番所が置かれ、川原丁（町）・仙北丁（町）とも大いに栄えた。
- ・架橋が難しく当初は舟渡しであったが、延宝8年（1680年）頃に、舟橋が架設された。
- ・両岸に巨大な親柱と中島の大黒柱を立て、20艘ほどの小舟を鉄鎖で係留し、その上に長さ2間半から3間（約5～6m）ほどの敷板を並べて、人馬が往来できるようにした。
- ・明治7年（1874年）に木橋の明治橋ができるまで存続した。

■ 位置図



■ 舟橋（増補行程記に描かれた舟橋）



現地案内板より

■ 舟橋模型



盛岡下町資料館蔵

■ 舟橋（明治橋）跡



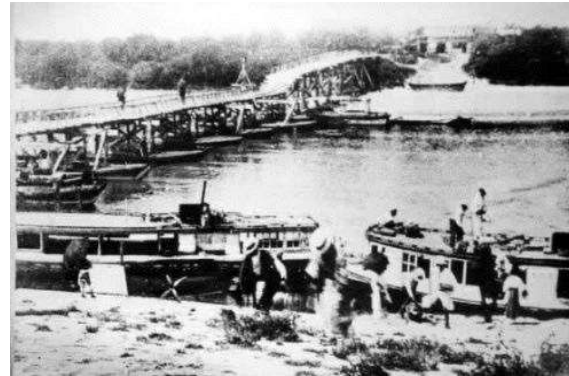
明治橋付近（盛岡市下町資料館向かい）

5. 意見交換 — ③ 舟運による地域振興 北上川における舟運の歴史 (3/3)

明治時代：舟運の近代化と衰退

- ・ 明治時代になり、明治18年（1885年）には石巻から狐禅寺まで蒸気船が就航し、舟運の近代化が進んだ。
- ・ 明治23年（1890年）に東北本線が盛岡まで開通し、舟運が衰え大正期には舟運としての舟の姿はなくなる。
- ・ 明治24年（1891年）に黒沢尻で大火があり、舟や町が消失したことも舟運の衰退につながったと言われる。

■ 発動機船 明治21年（1888年）に「北上丸」就航



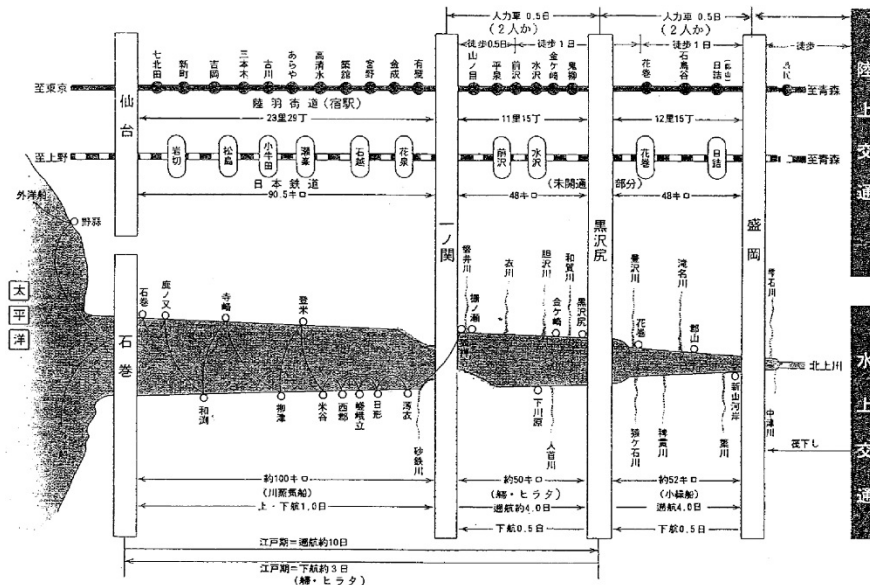
出典：NPO法人北上川流域連携交流会HP

■ 洋式汽船(岩手丸)



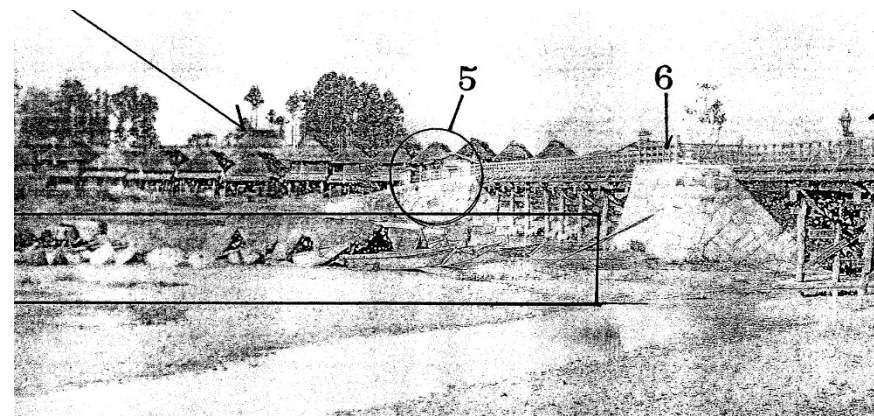
出典：北上川学習交流館「あいぼーと」HP

■ 明治23年4月 交通機関概要図



出典：北上川回漕関係交流事情の考察と今後の課題

■ 明治期の新山河岸（明治橋）付近



出典：北上川回漕関係交流事情の考察と今後の課題

5. 意見交換 – ③ 舟運による地域振興 舟運の復活に向けた動き (1/3)

舟運を地域の活性化に活かそうとする市民団体等の活動

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」の取組み

- ・北上川に舟っこを運航し、地域観光の振興を図り活力ある地域の形成に資することを目的に発足。(平成29年2月15日)
- ・平成29年6月17日(土)に、第1回『北上川フェスタ』IN MORIOKAを開催し、「舟運の歴史探訪船下り体験」を北上川夕顔瀬橋～明治橋上流にて実施。

■「北上川に舟っこを運航する会」事務局の考え

- ◎盛岡の観光資源である川を体感できるフェスタ、盛岡の魅力を活用した観光事業
- ◎定期的に開催して川のまち盛岡をアピール
- ◎川にまつわる多様なイベントを生み出し、盛岡の観光振興につなげる
- ◎小型の遊覧船や屋形船、釣り船の運航など、川に親しむイベントの開催

■これまでの主な活動

平成29年2月15日

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」設立

平成29年2月15日

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」設立記念講演会

平成29年6月17日

第1回『北上川フェスタ』IN MORIOKA 開催

平成29年10月17日

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」講演会

【構成メンバー】

- 顧問 平山 健一 (元岩手大学 学長)
吉田 義昭 (郷土文化研究所「盛岡」所長)
- 会長 村井 軍一 (盛岡まち並み塾)
- 構成団体 材木町商店街振興組合
盛岡駅前東口振興会
盛岡駅前商店街振興組合
肴町商店街振興組合
南大通3丁目町内会
盛岡舟っこ流し協賛会
盛岡まち並み塾

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」設立記念講演会

講師 三浦 義昭 先生 国土交通省岩手河川国道事務所 副所長
「盛岡地区かわまちづくり事業とミズベリング」

講師 吉田 義昭 先生 郷土文化研究所「盛岡」所長
城下町盛岡の特性「北上川舟運考」

日時 平成29年2月15日(水) 午後2時～3時30分
場所 プラザおでって3階ホール (入場無料)

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」
構成団体 材木町商店街振興組合
盛岡駅前東口振興会
盛岡駅前商店街振興組合
肴町商店街振興組合
南大通3丁目町内会
盛岡舟っこ流し協賛会
盛岡まち並み塾

後援 国土交通省岩手河川国道事務所・盛岡市
主催 北上川に舟っこを運航する盛岡の会
事務局 盛岡駅前東口振興会 電話 019-601-7244 FAX 019-601-7245

5. 意見交換 — ③ 舟運による地域振興 舟運の復活に向けた動き (2/3)

第1回『北上川フェスタ』IN MORIOKA

- ・日時：平成29年6月17日（土）10：00～16：00
- ・場所：北上川夕顔瀬橋～明治橋上流

■ 舟運の歴史探訪船下体験

- ◎ 夕顔瀬橋～明治橋約2kmをゴムボートに乗船して川下り
- ◎ もりおか町家物語館で小繰舟「おくりぶねごんべえ丸」の展示見学
- ◎ 大慈清水御休み処でCGで再現した舟運時代の舟橋の映像放映、舟っこ流しの模型・パネル展示 等

【位置図】



出発式では、盛岡市長ご夫妻、平山名譽教授(岩手大学)、清水・成田所長も出席。

岩手山をバックに川からの街並みを楽しむことができました。

100枚ほどの前売り券は完売

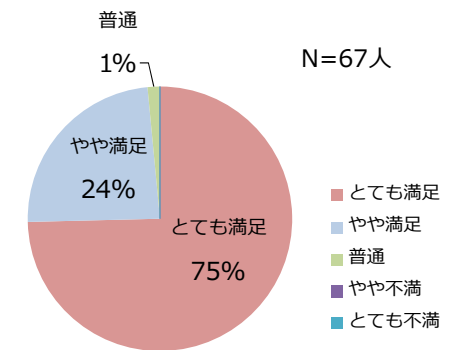
3艇で川下り

下船後は歴史探訪

舟橋の映像放映(CG)

「ごんべえ丸」展示

舟運の歴史探訪船下体験の満足度（参加者アンケート）



第1回『北上川フェスタ』IN MORIOKA チラシ

5. 意見交換 – ③ 舟運による地域振興 舟運の復活に向けた動き (3/3)

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」講演会

- ・日時：平成29年10月17日（火）14:00～15:30
- ・場所：プラザおでって3階ホール
- ・主催：北上川に舟っこを運航する盛岡の会
- ・共催：盛岡市
- ・後援：岩手河川国道事務所
北上川ダム統合管理事務所
- ・講演内容

- 「北上川の復権と舟運」
- 城下町盛岡の特性「北上川舟運考 Part2」

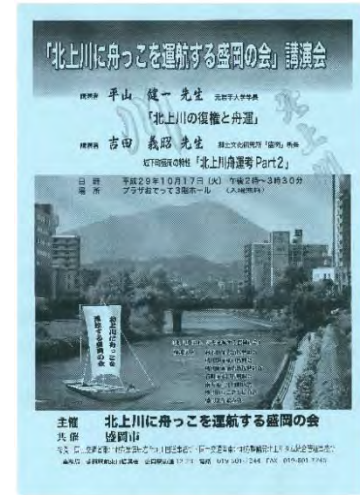
本講演会（第2回）は、多くの方々に北上川と人々の歴史的関わりを知ってもらう機会と、これからの地域発展に川と人々が共存するまちづくりが必要である事の意義を考える機会を提供する事を目的に開催され、市民らを中心に約70人が参加し地域の歴史に理解を深めた。



（開会の言葉）
北上川に舟っこを運航する盛岡の会
副会長 宮沼 孝輔氏
（材木町商店街振興組合）



（主催者挨拶）
北上川に舟っこを運航する盛岡の会
会長 村井 軍一氏
（もりおかまち並み塾）



講演会チラシ

■「北上川の復権と舟運」

平山 健一 氏(元岩手大学学長)

北上川と流域社会との関わりについて話があり、経済発展の中で自然が失われた時期から、北上川本来の姿をとり戻すための市民活動の歩み、官民連携した川の復権へ活動の紹介があった。また、舟運復活の動きについて紹介があり、盛岡が北上川舟運の一番上流であることにプライドを持ち、大きな視野で、北上川流域全体の活性化について考えていくべきとの提案がなされた。



平山 健一 氏（元岩手大学学長）の講演



■城下町盛岡の特性「北上川舟運考 Part2」

吉田 義昭 氏(郷土文化研究所「盛岡」所長)

北上川における舟運の歴史の説明と、舟運が行われていた当時の様々な資料が紹介され、北上川は船が往来している川の番付（1813年）で1位であったことが紹介された。江戸から石巻を経て、盛岡の豪商たちへ荷物が運ばれた際、確かに届いたという送り状をとりかわしていたことから、流域の商人たちの結束した姿がわかり、北上川が1位だった理由の一因になっているのではないかという話があった。



吉田 義昭 氏（郷土文化研究所「盛岡」所長）の講演



盛岡タイムス（平成29年10月19日）

5. 意見交換 — ③ 舟運による地域振興 その他の活動

川とまちづくり「盛岡の街と北上川」シンポジウム

日時：平成29年10月29日（日）
13:00～17:00

場所：岩手大学教育学部 北桐ホール
主催：北上川「流域圏」フォーラム実行委員会
岩手大学地域防災研究センター
協賛：（一社）東北地域づくり協会
後援：NHK盛岡放送局、岩手日報社、
岩手日日新聞社

■開催趣旨

北上川は豊かな恵みをもたらし、時には厳しい試練を与えてきた流域社会にとって母なる川である。シンポジウムは、北上川・雫石川・中津川の三川が合流する地の利を活かして発展してきた盛岡の歴史を振り返りながら、北上川を中心とする水辺や清水を活用した「杜と水の都」盛岡にふさわしいまちづくりを考えるため、開催された。

■プログラム

1. 主催者あいさつ
2. 基調講演
○川からのまちの再生－国内外の事例から－
○歴史から学ぶ川の街・盛岡の魅力
○富山市における水辺復活への想い
3. パネルディスカッション
「川・水を活かした盛岡のまちづくり」



（主催者あいさつ）
北上川「流域圏」フォーラム
実行委員会
委員長 平山 健一氏

「川からのまちの再生－国内外の事例から－」

リバーフロント研究所 代表理事 金尾健司氏



江戸時代から現在までの川とまちの関わりについて説明。かつての水辺は、人々の生活の一部であり、子どもの遊び場、動物との共存など、憩いの場・集いの場であった。高度成長期の産業・生活排水による川の汚染等、受難の時代を経て、社会は豊かな環境、心のゆとりを求める時代となった。水辺の価値を見直そうとする動きが始まり、まちづくりと一体となった河川整備が行われるようになった。現在の「かわまちづくり」の取り組み等について、国内外の事例の紹介。

「歴史から学ぶ川の街・盛岡の魅力」

東海大学文学部 講師 兼平賢治氏



盛岡城と北上川、舟運としての起点、陸路の玄関口として発展した盛岡について説明。盛岡は、盛岡城の築城により城下町として発展し、北上川舟運の起点である新山河岸では江戸への物資輸送が行われた。北上川は自然の恵みをもたらし、物流の場、人々の慰みや娯楽、霊を弔う場でもあったが、危険も伴い、人命をも奪う驚異的な力をもっていた。しかし、北上川と江戸時代の人々は一体となって地域にあり、人と自然は「共生」していた。

「富山市における水辺復活への想い」

富山観光遊覧船株式会社 代表取締役 中村孝一氏



富山市松川における遊覧船運航事業の始まりから現在までの経緯や、富山を代表する観光スポットとなった松川の活動について紹介。かつての美しい松川をとり戻し、市の中心部に新たな魅力をつくるため、「東洋のベニス」を目指した取り組みを始めた。船の運航に伴う様々な課題を解決し、海外視察、アメリカの遊覧船会社との姉妹提携、国際フォーラムの開催や協議会の設立など様々な活動を行っている。

パネルディスカッション 「川・水を活かした盛岡のまちづくり」

コーディネーター：実行委員長 平山健一氏
パネリスト：

リバーフロント研究所 代表理事 金尾健司氏
東海大学文学部 講師 兼平賢治氏
富山観光遊覧船株式会社 代表取締役 中村孝一氏
北上川に舟っこを運航する盛岡の会 事務局 阿部優氏
盛岡まち並み塾 理事 金野万里氏



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションにさきがけ、「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」から活動紹介と盛岡駅前木伏緑地の改修後の活用について、また「盛岡まちなみ塾」から、発足の経緯と活動の紹介について、話題提供があった。ディスカッションのテーマと主な意見は以下のとおりである。

テーマ① 盛岡の街、川の影響について

- ・駅をおりて、北上川、岩手山、材木町の裏の石垣など、素晴らしい場所があるのに活かしきれていない。
- ・商店街とすれば、駅前の商店街を大通りにつなげたいが、川で分断されているという印象がある。
- ・盛岡に新幹線で行って来るところから、山が迫ってくるなど、景観の魅力を感じられる。

テーマ② 川を活用したまちづくりの進め方、課題

- ・駅前から明治橋まで船で下り、帰りはまちなかを散策してもらえば、地域活性化につながる。その為には、歴史をもっと掘り起し、まちなかの歴史の整備をしっかりと行う必要がある。
- ・水辺の活用について、行政と民間は一体となって取り組むことが必要であり、また調整する組織・人材も必要である。

テーマ③ 舟運の可能性について

- ・船の運航については、課題がある。今できること（ゴムボート、カヌーなどの活用）から初めてはどうか。
- ・どんな水辺にしたいか、地域の子ども達も一緒に描いてみる。
- ・舟運の取り組みは、長期戦となるだろう。若い人を育てていく必要がある。
- ・舟運はよい観光資源であるので、まちづくり、地域活性化につなげる。北上川の古川の活用も考えられる。

5. 今後の予定

盛岡地区かわまちづくり計画の事業

■ 盛岡市

- ・お城を中心としたまちづくり計画（平成21年度～）

■ 国土交通省

- ・環境整備事業
サイン設置（～平成32年度）、階段整備（～平成31年度）、河道整正（～平成32年度）、船着場（～平成32年度）

■ かわまちづくり勉強会の実施（案）（平成30年2月予定）

【テーマ】

① 舟運による地域振興

- ・北上川の舟運の歴史から、盛岡の街の発展は北上川からもたらされたことを参加者で共有する。
- ・他河川の舟運の事例等をもとに、盛岡に適した舟運による地域振興について意見交換を行う。
- ・北上川における舟運の復活に向けて、継続的に議論を行う。

② サケを資源としたまちおこし

- ・盛岡市中心部を流れる中津川でサケの遡上を見ることができる自然環境が身近にあることについて市民の関心度を高め、市民活動の活発化につなげる。
- ・サケ観察ツアーを企画、開催し観光客を呼び込む。
- ・「もりおか中津川サケ物語」の更なる活用方策について、意見交換を行う。
- ・具体的方策の今後の展開について、意見交換を行う。

○次年度以降も「舟運による地域振興」「サケを資源としたまちおこし」を主体とした勉強会を継続する予定である。